

市民・事業者からの意見聴取結果

1 趣旨

市民・事業所のごみ排出状況や、減量・資源化に対する関心度や意見等を把握し、新たな一般廃棄物処理基本計画において実施する施策等に反映させることを目的として、市民・事業者を対象としたワークショップ、説明会及びアンケートを実施しました。

2 実施概要

- (1) 市民ワークショップ
- (2) 市民説明会
- (3) 事業者説明会
- (4) 資源集団回収運動団体アンケート
- (5) 市民アンケート
- (6) 事業所アンケート

3 実施内容

(1) 市民ワークショップ

市民が普段感じているごみ排出時の課題や、減量施策に対する意見等を把握するため、市民を対象としたワークショップを実施しました。

ア 実施概要

表 1 市民ワークショップ実施概要

開催タイトル	①みんなでごみについてぶっちゃけ会 ②ごみ減量のススメ
実施日	①令和元年8月4日(日)午後2時10分～午後3時 ②令和元年8月4日(日)午後3時20分～午後4時10分
開催場所	尼崎市立琴ノ浦高等学校 北館2-4教室 (「みんなのサマーセミナー2019」会場)
対象者	市民
参加人数	①15名 ②11名
内容	「①地域のごみ出しで困っていることとその解決策」「②ごみを減量するためにできる取り組み」をテーマに、市民の自主的な取り組みや、市の施策に求めることについて意見を出し合いました

イ 結果概要

(ア) みんなでゴミについてぶっちゃけ会

地域のごみ出しで困っていることとその解決に向けて、市民ができること、市ができることについて次の意見が出されました。

表 2 主な意見

困っていること	市民ができること	市ができること
ごみ出しマナー	・ごみ出しマナーを向上させるため、まず市民1人1人の意識を高める	・ごみ出しに関する情報提供や学習の場の提供などの啓発 ・監視や罰則など規制・指導を強化する
カラス	・ごみ出し時間を守る、生ごみをつくらない、ネットをしっかりとかけるなど市民1人1人が自主対策を行う	・早朝に収集する
資源の持ち去りや違法な回収業者	・違法回収に関する正しい知識を持つ ・集団回収の実施や排出時間を守るなどの自主対策を行う	・違法回収に関する正しい情報を発信する ・パトロールや取締まりを強化する
ごみの出し方がわかりにくい		・わかりやすい分別表やアプリの普及といった情報提供ツールの充実 ・複数の排出方法を提示するなどわかりやすい排出ルール作り ・地域にごみの分別等について相談できる存在が必要

(イ) ごみ減量のススメ

家庭ごみとして主に排出される品目の減量に向けて、市民や市が行うべき取り組みについての意見が出されました。

表 3 主な意見

取り組み主体	ごみ品目	主な取組み
市民ができること	食品ごみ	食べ残しをつくらない、堆肥化する
	プラスチックごみ	レジ袋をもらわない
	紙ごみ	電子書籍を使う、紙を分別して出す
	家具・家電	リユースショップやフリマアプリを活用する
事業者ができること	食品ごみ	質素な宴会コースメニュー、包装の軽量化
市ができること	食品ごみ	簡単確実な堆肥化方法を周知する
	衣類	子ども服のリユースコーナーを市役所に作る
	全般	リサイクルの授業
	全般	ごみ袋の有料化

(2) 市民説明会

地域でのごみ排出時の課題や、今後取組むべき施策について、地域のごみに関する実情を知るさわやか指導員（廃棄物減量等推進員）と意見交換を行うため、さわやか指導員を対象に説明会を実施しました。

ア 実施概要

表 4 市民説明会実施概要

実施日 ・ 開催地区	①令和元年10月1日（火）午前10時～午前11時30分：中央地区 ②令和元年10月7日（月）午後2時～午後3時30分：園田地区 ③令和元年10月8日（火）午後2時～午後3時30分：小田地区 ④令和元年10月10日（木）午後2時～午後3時30分：武庫地区 ⑤令和元年10月15日（火）午前10時～午前11時30分：大庄地区 ⑥令和元年10月17日（木）午前10時～午前11時30分：立花地区
対象者	さわやか指導員
参加人数	①75名 ②65名 ③87名 ④46名 ⑤67名 ⑥84名 合計424名
内容	基本計画の目的、現行計画の目標達成状況や改定にあたっての課題等を説明し、ごみの排出に係る課題及び施策等について意見交換を行いました

イ 結果概要

今後本市が取組むべき施策について、次の意見が出されました。

表 5 主な意見

・高齢者に負担をかけない収集方法や制度を検討してほしい
・市報を活用するなど、ホームページを見られない人へ配慮した広報を行ってほしい
・違法な不用品回収業者への指導を行ってほしい
・カラス被害に困っているため、カラス対策を考えてほしい
・焼却炉が1つになった場合、災害時にどのように対応するのか

(3) 事業者説明会

事業系ごみの収集及び資源化・適正処理に係る課題や、今後取組むべき施策について、事業系ごみ処理の実情を知る処理業者と意見交換を行うため、紙資源回収協力事業者及び一般廃棄物収集運搬業許可業者を対象に説明会を実施しました。

ア 実施概要

表 6 事業者説明会実施概要

実施日	①令和2年3月11日(水) 午前10時～午前11時30分 ②令和2年3月12日(木) 午後2時～午後3時30分
開催場所	尼崎市役所大高洲庁舎 ①3-2 会議室 ②2-8 会議室
対象者	①紙資源回収協力事業者 ②尼崎市一般廃棄物収集運搬業許可業者(ごみ)
参加事業所数	①2社 ②11社
内容	基本計画の目的、現行計画の目標達成状況や改定にあたっての課題等を説明し、事業系ごみ減量化に係る課題及び施策等について意見交換を行いました

イ 結果概要

今後本市が取組むべき施策等について、次の意見が出されました。

表 7 主な意見

	意見
適正処理	・事業系ごみ適正処理パンフレットについて、一般廃棄物と産業廃棄物の両方をわかりやすくまとめた内容としてほしい
	・適正処理に協力した許可業者を評価する仕組みを作してほしい
	・排出者が行う廃棄物処理に対し、行政は情報提供等の支援を行うべきである
	・事業系ごみの指定袋を導入してはどうか
	・少量排出者が、少量のプラスチック等までも分別排出に対応できるのか疑問である
	・家庭ごみと同質のものは、家庭ごみへの排出を認めてはどうか
事業系古紙の資源化	・古紙価格の下落やドライバー等の担い手不足により、古紙の売却益で回収コストを賄うことができなくなっており、排出者に回収コストの負担を求める必要がある
	・排出者が直接持ち込める古紙回収拠点の設置は可能だが、場所の確保が課題である
	・少量排出であれば、行政回収(紙類・衣類の日)への排出を認めてはどうか
収集運搬料金と処分料金	・クリーンセンター手数料増額に伴う回収コストの値上げについて、多くの排出者が理解を示さなかった。収集運搬料金と処分料金の違いについて、行政からも排出者へ明示してほしい
	・月極契約が多く、従量制による契約は僅か。収集運搬料金と処分料金を分けることは可能ではあるが、従量制にするためには、計量器の導入など対応に時間を要する

(4) 資源集団回収実施団体アンケート

地域で資源化に取り組む資源集団回収運動における雑誌やカタログなどのその他紙類（以下、「雑がみ」）の回収促進を図る施策を検討するにあたり、同運動登録団体を対象に、雑がみの分別回収にあたっての課題や、市が実施すべき雑がみ回収促進に向けた施策に関する意見を把握するため、アンケート調査を行いました。

ア 実施概要

表 8 資源集団回収運動団体アンケート実施概要

実施期間	令和元年6月7日（金）発送～令和元年7月16日（火）
対象者	資源集団回収運動登録団体
回答数	回答数 346 団体（発送数 575 団体、回収率 60.2%）
調査内容	1. 雑がみ回収の実施状況 2. 雑がみ回収にあたっての課題 3. 雑がみ回収にあたって市に求める施策

イ 結果概要

今後本市が取り組むべき施策等について、次の意見が出されました。

表 9 主な意見

	意見
実施状況	・雑がみの回収を行っている団体は約 80%
雑がみ回収 にあたって の課題	○既に雑がみ回収に取り組んでいる団体
	・新聞や段ボールとの分別が徹底されていない
	・ビニールなどの不適物を混入して出される
	・燃やすごみに出される
	・高齢者には分別が難しい
	○雑がみ回収に取り組んでいない団体
	・燃やすごみに出している
	・分別がよくわからない
雑がみ回収 にあたって 市に求める 施策	・分別チラシの配布や出前講座などの広報を強化してほしい
	・各家庭で使える雑がみ保管袋を配布してほしい
	・雑がみ回収に対する奨励金額を増額してほしい
	・雑がみを取扱っている回収業者を紹介してほしい

(5) 市民アンケート

市民のごみ排出状況や、ごみに対する関心度や意見等を把握するため、市民を対象としたアンケート調査を行いました。

ア 実施概要

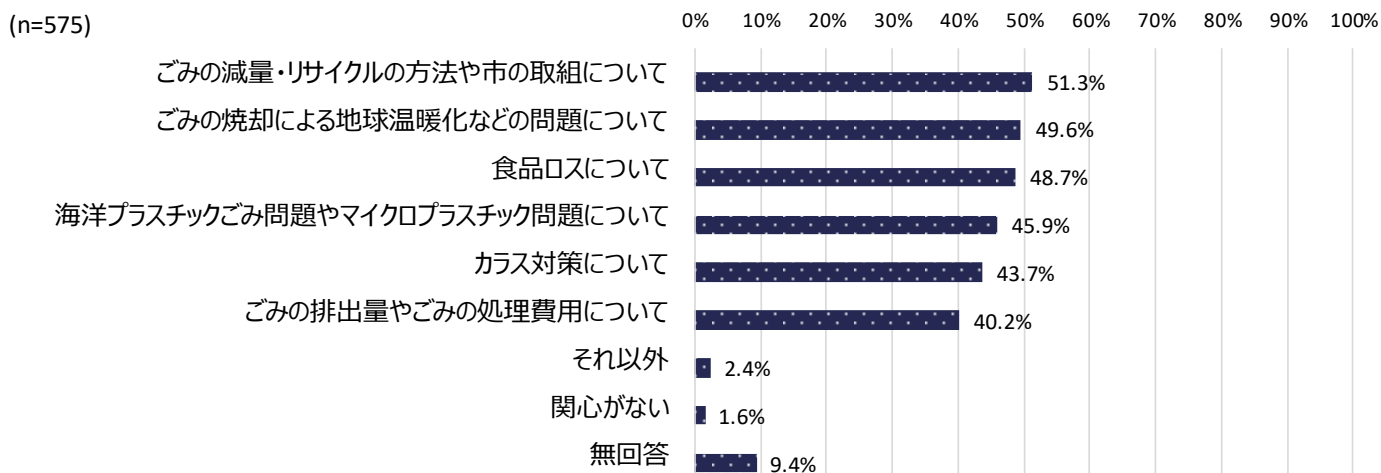
表 10 市民アンケート 実施概要

実施期間	令和元年 11 月 13 日（水） 発送～令和元年 12 月 6 日（金）
対象者	満 20 歳以上の市民
回答数	回答数 575 名（発送数 1,500 名、有効発送数 1,482 通、回収率 38.8%）
調査内容	1. ごみ減量の意識・浸透度について 2. 情報源について 3. ごみの排出方法について 4. 食品ごみ、プラスチックごみについて 5. 市の取組みについて

(ア) ごみ減量の意識・浸透度について

・ごみの減量・リサイクルに対して「関心がある」市民は、半数程度（51.3%）となっています。

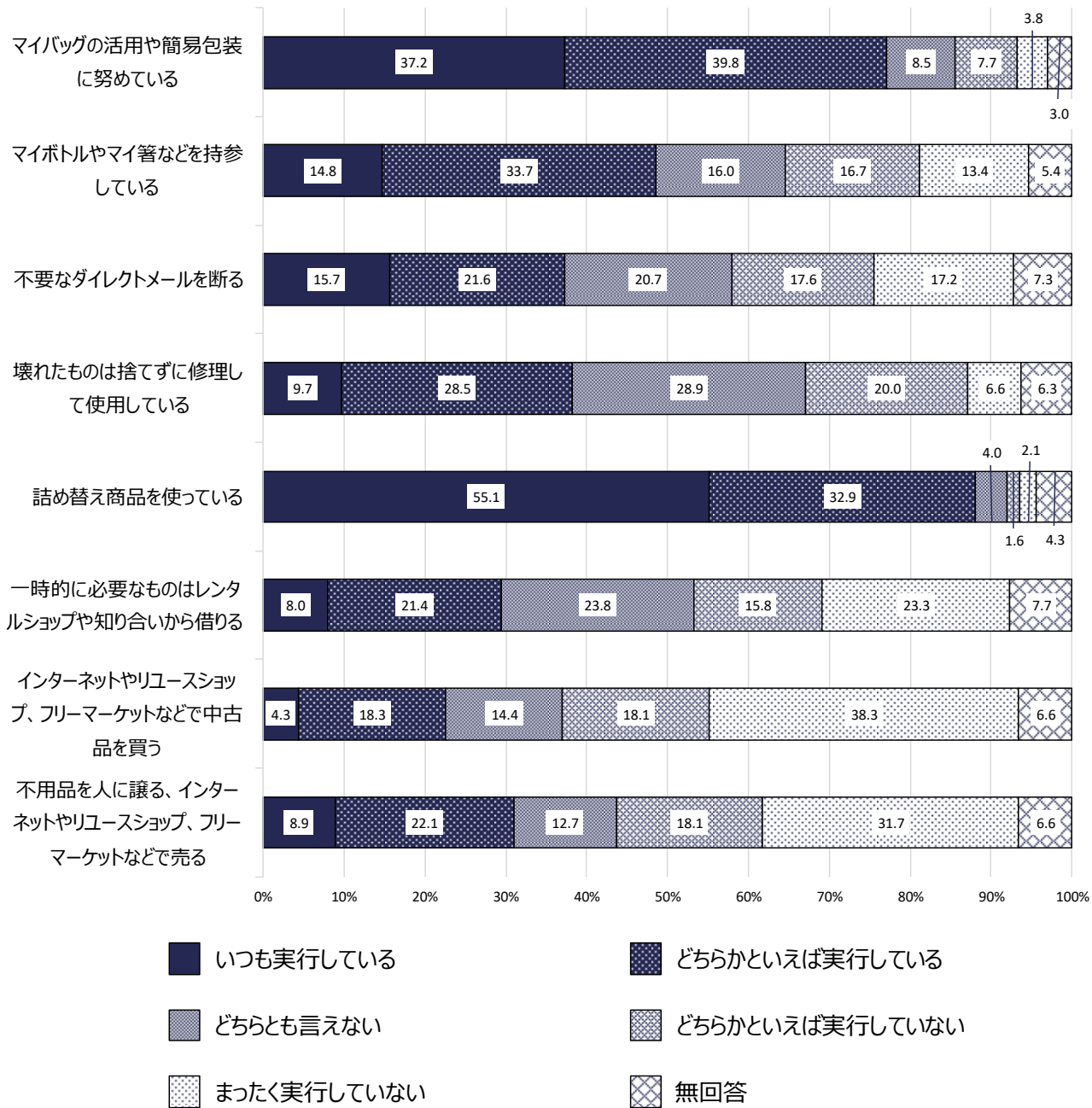
図 1 ごみに関する関心事項



- ・家庭で詰め替え商品を使う市民は約80%以上となっています。
- ・中古品を売るなどのリユースに取り組む市民は約30%程度と低くなっています。

図2 リデュース・リユースの取り組み状況

(n=575)



(イ) 情報源について

- ・ごみの減量やごみの分別に関する情報を得る情報源は、「尼崎市の広報紙」が最も多く活用されています。
- ・年代別にみると、50代以上の半数以上が「尼崎市の広報紙」を活用している一方、20～30代では「尼崎市のホームページ」、「SNS」などインターネットの活用が多くなっています。

図3 ごみ減量に関する情報源

(%)	尼崎市の広報紙	ラジオ・テレビ	新聞	尼崎市のホームページ	知り合い、友人、家族	尼崎市の ごみ分別ア プ	自治会や 地域のさ わや	雑誌・ 書籍	(Face book, Twitter 等)	SNS	企業や環 境団体の ウェブサ イト・メ ールマガ ジン	その他の 情報源	研修会や イベント	無回答
全体 (n=575)	54.1	29.7	17.9	15.5	12.7	9.4	5.9	5.7	3.5	1.7	1.7	1.4	9.2	
20代 (n=26)	15.4	26.9	3.8	23.1	7.7	7.7	0.0	0.0	19.2	0.0	3.8	0.0	19.2	
30代 (n=58)	34.5	29.3	6.9	22.4	8.6	3.4	0.0	5.2	8.6	3.4	5.2	1.7	17.2	
40代 (n=86)	41.9	31.4	11.6	14.0	14.0	3.5	1.2	9.3	5.8	3.5	1.2	0.0	10.5	
50代 (n=106)	57.5	29.2	19.8	17.0	13.2	3.8	4.7	7.5	2.8	0.9	0.9	0.9	7.5	
60代 (n=123)	58.5	31.7	18.7	15.4	15.4	13.0	5.7	6.5	0.0	3.3	0.8	2.4	4.1	
70代 (n=127)	70.1	28.3	29.9	11.8	12.6	15.7	11.0	3.9	0.0	0.0	2.4	1.6	4.7	
80代以上 (n=44)	61.4	29.5	13.6	11.4	11.4	15.9	13.6	2.3	4.5	0.0	0.0	0.0	15.9	

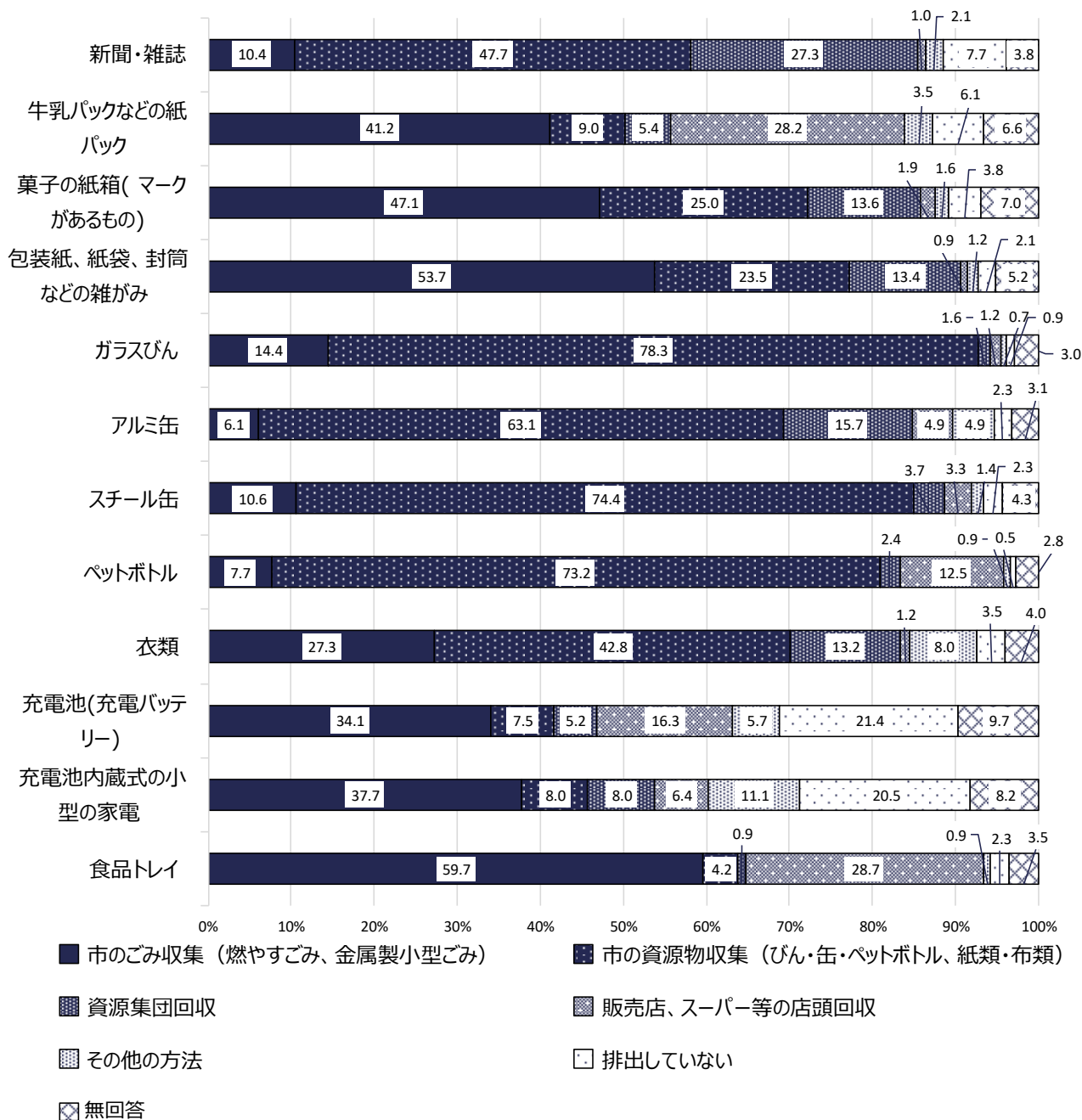
図4 ごみの分別・分け方に関する情報

(%)	尼崎市の広報紙	尼崎市のホームページ	ニ 崎市の ごみ分 別ア プ	知り 合い、 友人、 家族	ラ ジ オ・ テ レ ビ	自 治 会 や 地 域 の さ わ や	新 聞	雑 誌 ・ 書 籍	そ の 他 の 情 報 源	I n s t a g r a m (等)	(F a c e b o o k, S N S)	研 修 会 や イ ベ ン ト	企 業 や 環 境 団 体 の ウ ェ ブ サ イ ト ・ メ ー ル マ ガ ジ ン	無 回 答
全体 (n=575)	68.2	32.7	13.6	12.0	8.3	7.1	6.4	1.9	1.4	0.7	0.7	0.3	2.8	
20代 (n=26)	34.6	42.3	11.5	3.8	7.7	0.0	0.0	0.0	3.8	7.7	3.8	0.0	0.0	
30代 (n=58)	36.2	60.3	8.6	19.0	6.9	0.0	1.7	1.7	5.2	3.4	0.0	0.0	5.2	
40代 (n=86)	59.3	53.5	5.8	8.1	7.0	2.3	2.3	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	1.2	
50代 (n=106)	74.5	38.7	4.7	11.3	8.5	8.5	6.6	2.8	0.9	0.0	0.0	0.9	2.8	
60代 (n=123)	73.2	22.0	17.9	12.2	9.8	7.3	6.5	2.4	0.8	0.0	1.6	0.0	3.3	
70代 (n=127)	82.7	17.3	18.9	13.4	7.9	14.2	11.0	0.8	0.8	0.0	0.8	0.0	2.4	
80代以上 (n=44)	79.5	13.6	29.5	11.4	9.1	6.8	6.8	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	

(ウ) ごみの排出方法について

- ・新聞、雑誌は約76%が分別排出されていますが、雑がみは約40%となっています。
- ・びん・缶・ペットボトルは80%以上が分別排出されています。

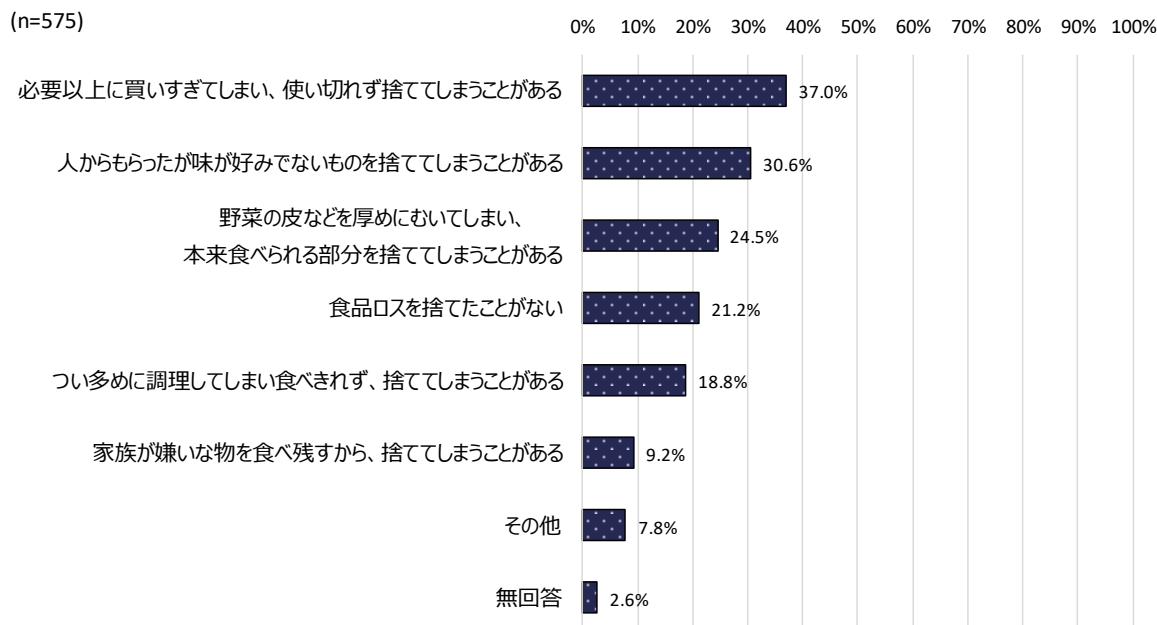
図5 ごみの排出状況



(エ) 食品ごみについて

・食品ロスの発生要因について、「必要以上に買いすぎてしまい、使い切れずに捨ててしまうことがある」が 37.0%、「人からもらったが味が好みではないものを捨ててしまうことがある」が 30.6%となっています。

図 6 食品ロスの発生要因



(オ) プラスチック製品について

・ナイフ・フォーク、ストローなどの使い捨てプラスチック製品について、半数以上の市民が「使わなくてもいい」としています。

・また、今後のプラスチックごみの処理方法については、「まずはプラスチック使用を減らすことで、ごみとなるプラスチックを減らすべき」と考える市民が最も多く、40.7%となっています。

図 7 使わなくてもよいと思うプラスチック

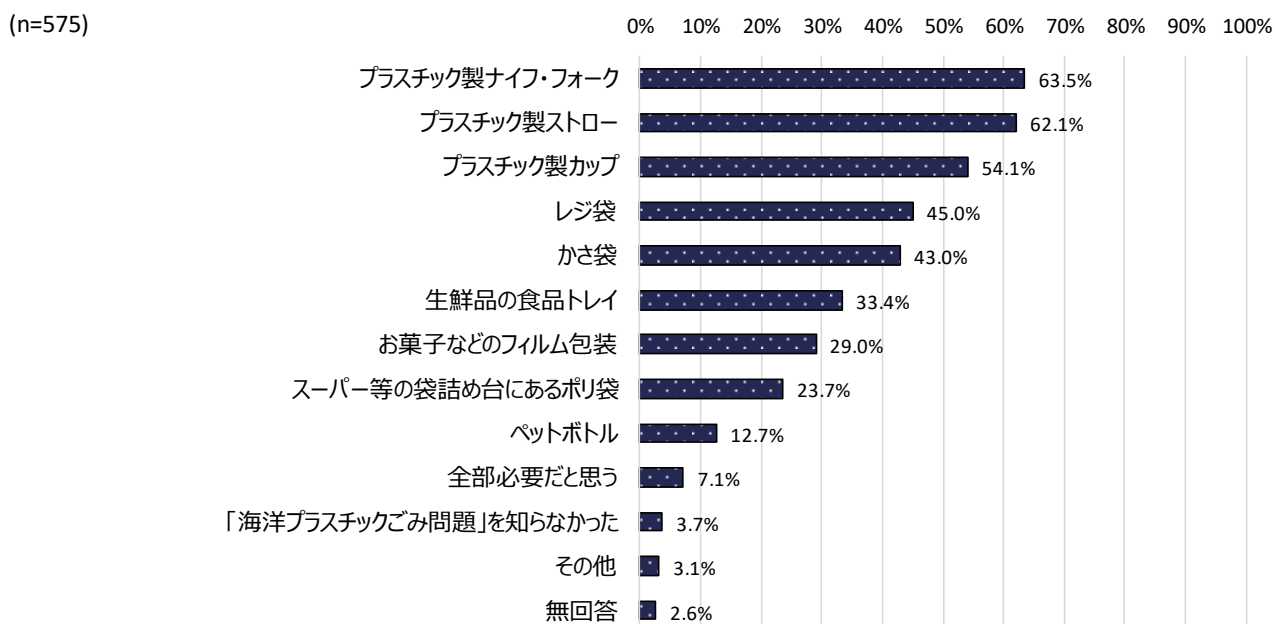
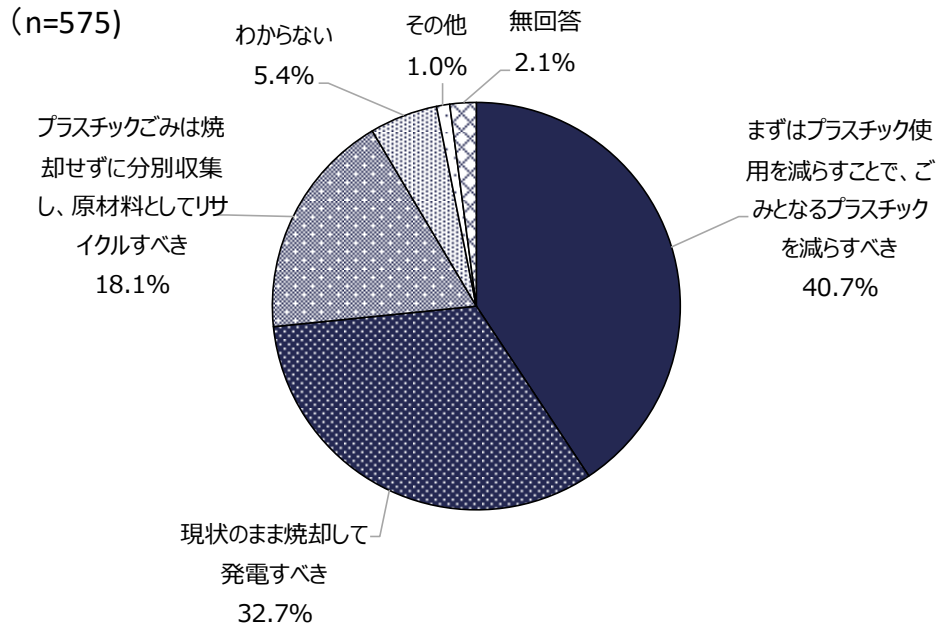


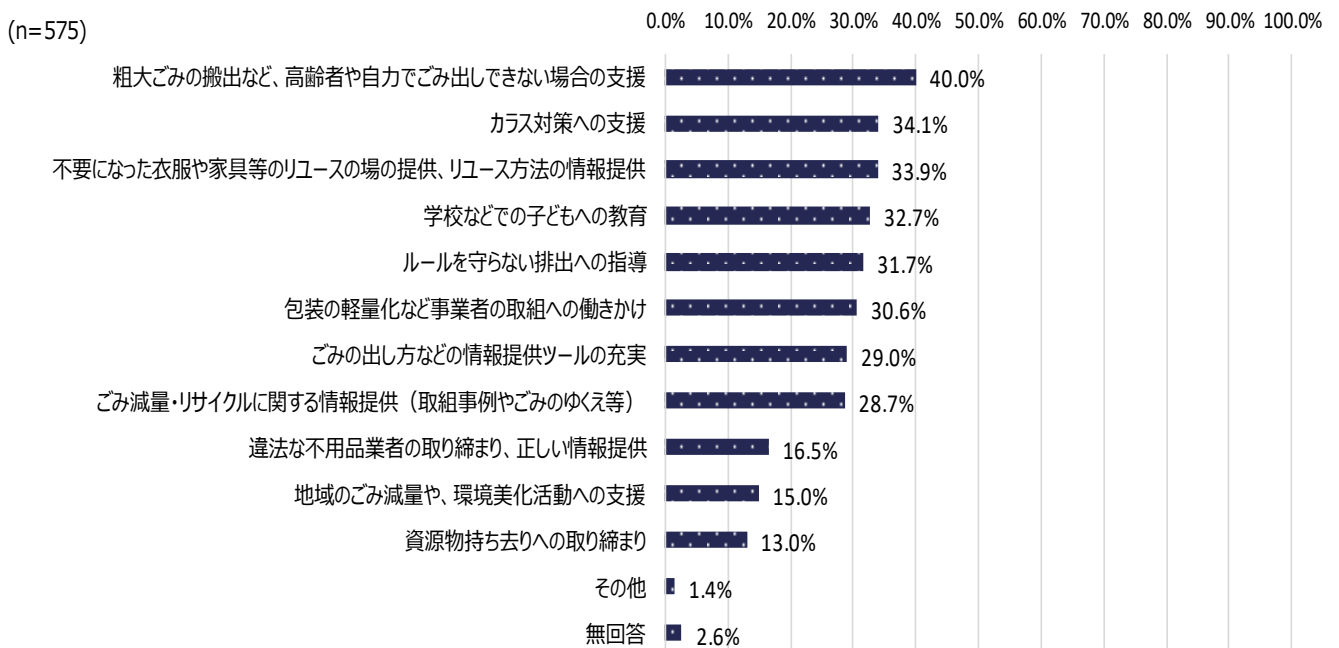
図8 今後のプラスチックごみの処理方法



(カ) 今後取組むべき施策について

・今後取組むべき施策として、「粗大ごみの搬出など、高齢者や自力でごみ出しできない場合の支援」(40.0%)、「カラス対策への支援」(34.1%)といった地域のごみ出しを支援する施策や、「不要になった衣服や家具等のリユースの場の提供、リユース方法の情報提供」(33.9%)といったリユースの取組みを促進する施策が求められています。

図9 今後大切だと思う取組み



(6) 事業所アンケート

事業所のごみ排出状況や、適正処理、減量・資源化に対する関心度や意見等を把握するため、事業所を対象としたアンケート調査を行いました。

ア 実施概要

表 11 事業所アンケート 実施概要

実施期間	令和元年 11 月 13 日（水）発送～令和元年 12 月 6 日（金）
対象者	市所在の事業所
回答数	回答数 157 事業所（発送数 500 通、有効発送数 490 通、回収率 32.0%）
調査内容	1. ごみ排出状況について 2. ごみ減量・リサイクルの取組みについて 3. 市からの情報提供について

イ 結果概要

(ア) ごみ排出状況について

・事業系一般廃棄物と産業廃棄物の分別について、19.1%の事業所が正しく分別できていません。また、15.9%の事業所が、事業系一般廃棄物を家庭ごみとして排出しています。

図 10 事業系一般廃棄物と産業廃棄物の分別状況

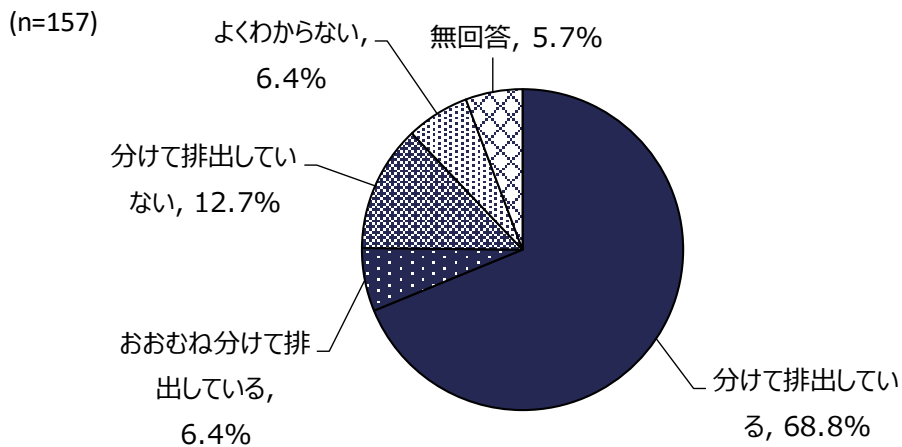
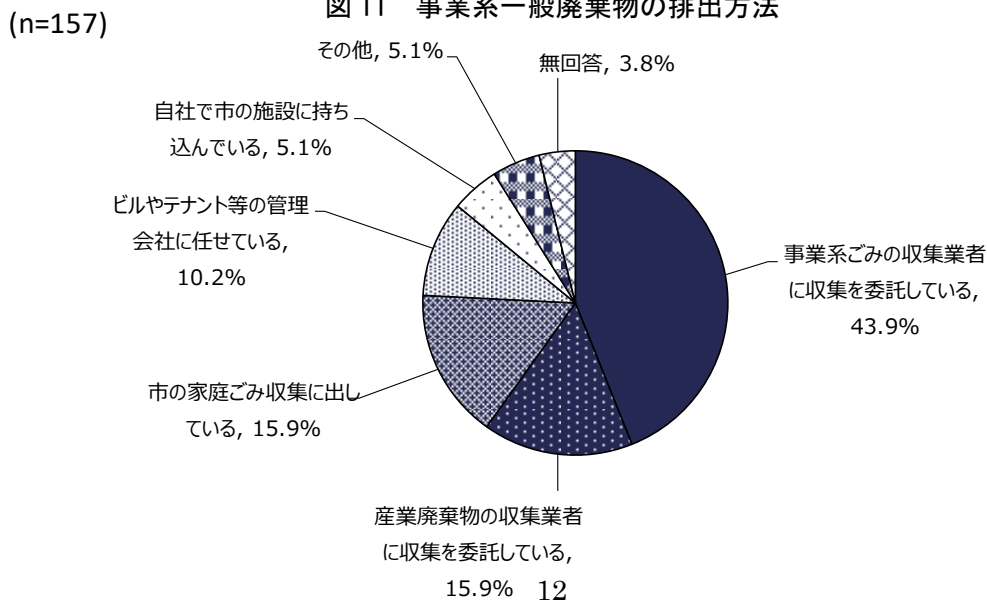


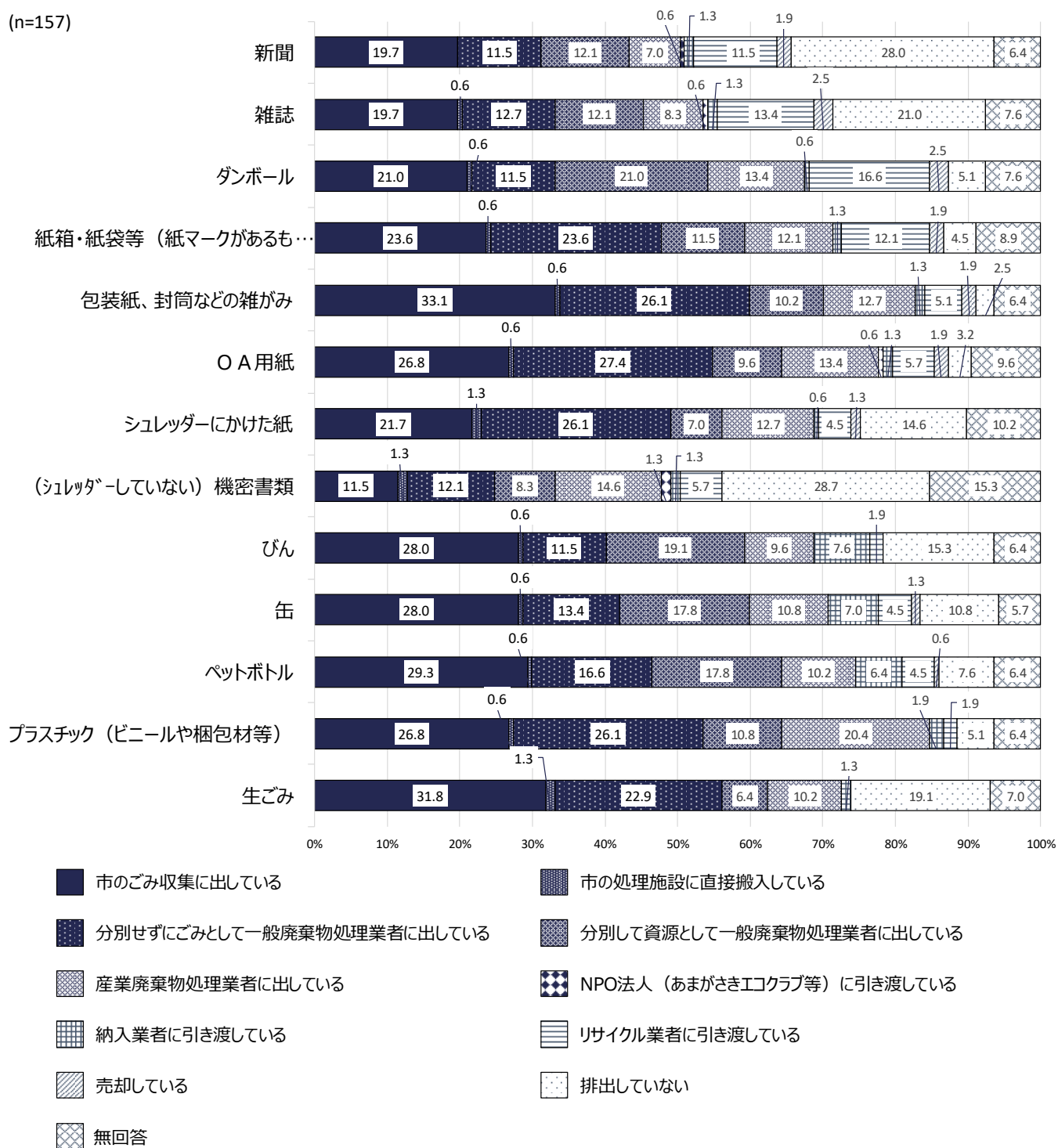
図 11 事業系一般廃棄物の排出方法



・事業系古紙やびん・缶・ペットボトルといった資源物を正しく分別排出している事業所は、いずれの品目も40%以下となっています。

図12 事業系古紙、びん・缶・ペットボトルの分別状況

(n=157)



(イ) ごみ減量・リサイクルの取組み

・資源物の分別について、費用に係らず「分別するなど、リサイクルに協力したい」とする事業所は 43.3%となっています。

・一方で、「資源物を保管するスペースがない」(21.0%)、「分別に手間がかかる」(19.7%) など、事業所におけるごみ減量・リサイクルの取組みに対する課題があります。

図 13 資源物分別への協力の意向

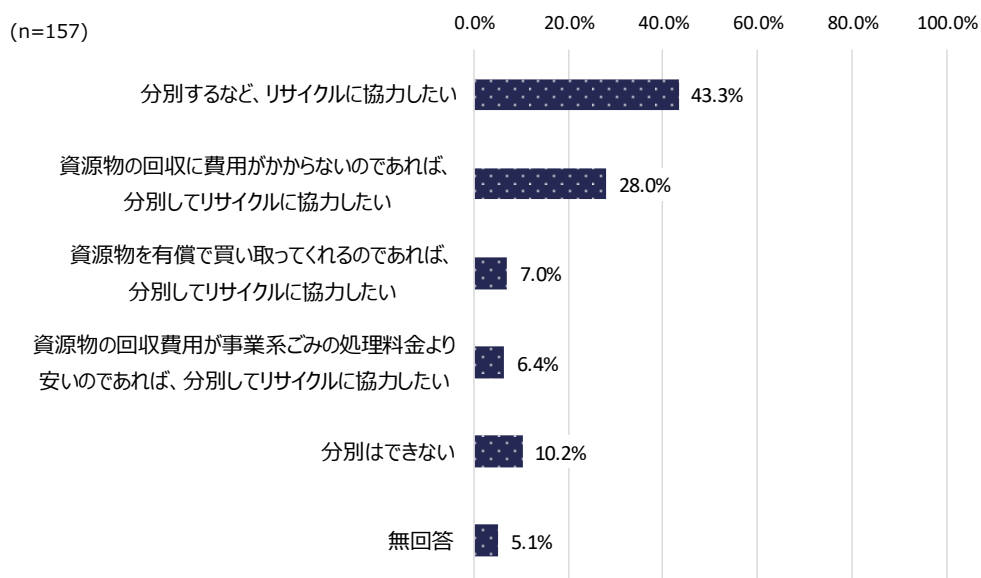
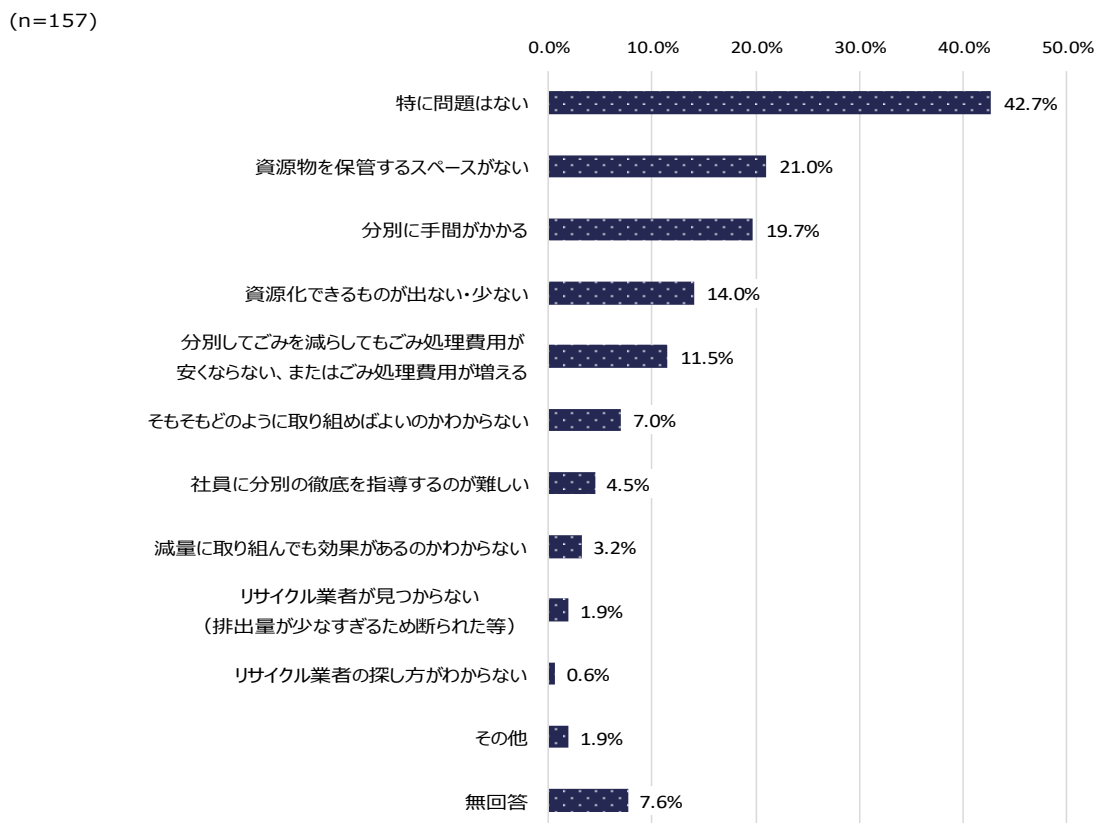


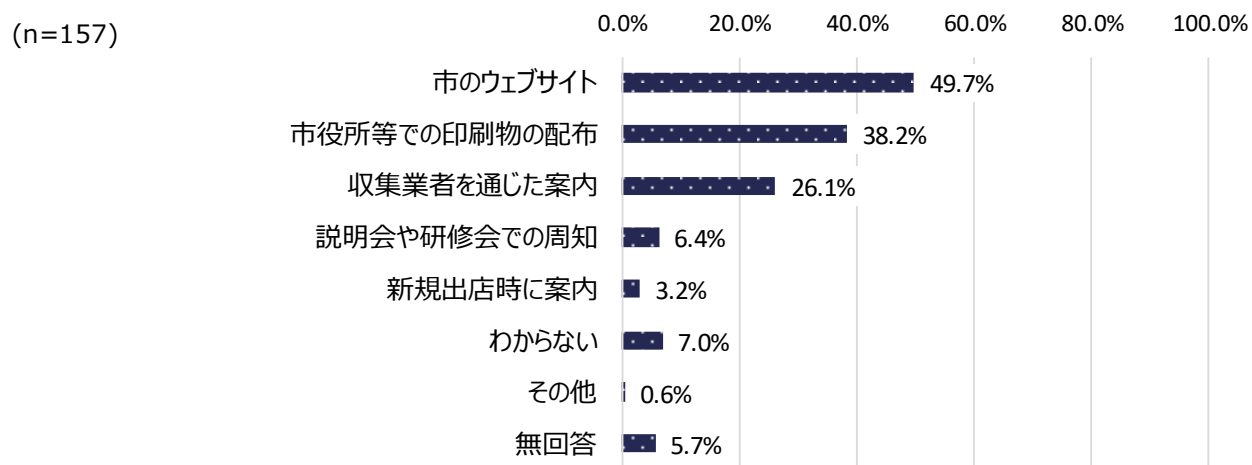
図 14 ごみ減量化・リサイクル推進に関する問題点



(ウ) 情報発信について

・事業者が活用しやすい情報媒体として、「市のウェブサイト」(49.7%)、「市役所等での印刷物の配布」(38.2%)、「収集業者を通じた案内」(26.1%)となっています。

図 15 利用しやすい情報媒体



以 上